

19	安城	高棚小学校	イワイ アヅミ 岩井 あづ美
----	----	-------	-------------------

分科会番号	6	分科会名	生活科教育
-------	---	------	-------

## 研究題目

**人と繰り返し関わることで、気付きの質を高めていく児童の育成  
－ 1年「1ゆきぴかぴかたんけんたい」の実践を通して－**

### 1 はじめに

本学級の児童は、とても明るく、様々なことに対して前向きに取り組むことができる。入学当初は不安そうな児童も、スタートカリキュラムを取り入れながら、少しずつ学校生活にも慣れてきた。また、校内で目にする施設や遊具に対して旺盛な好奇心をもち、それらを使ったり遊んだりする中で、いろいろな発見をしたり友達が増えたりして、学校は楽しいところであると感じている。生活科の授業では、4月に2年生との「仲良しの会」を行い、交流する時間を設けた。それまでは、2年生に対して伝えたいことや話したいことをカードに書き、楽しみにする姿が見られたが、いざ目の前にすると、自分から進んで話すことができず、固まってしまう様子が見られた。また、関わりたい気持ちが裏目に出てしまい、2年生の気持ちを考えずに、言葉を発する姿もあった。

そこで、本単元では、児童の「学校のことを知りたい。」という思いから、探検活動を取り入れていく。その際、2年生や同じ学級の児童と一緒に「わくわく」する「もの」や「ひと・こと」を見付ける活動を通して、人と関わることの楽しさや、様々な人や施設、自分との関わりに興味をもって生活ができるようになってほしい。また、人と関わりながら、繰り返して「わくわく」する「もの」や「ひと・こと」について探し、その後自分から発信したり友達の話の話を聞いたりすることで、気付きの質を高め、次時への思いにつながるようなことができるようになってほしいと考え、本単元を設定した。

### 2 めざす児童の姿

- ・人と関わることの楽しさを実感しながら、意欲的に探究する児童
- ・学校にある「わくわく」する「もの」「ひと・こと」に自ら興味をもち、自分の思いや気付きを表現したり友達と交流したりする児童

### 3 研究の構想

#### (1) 研究の仮説

##### <仮説1>

スタートカリキュラムや他教科を取り入れる教科横断的な単元構想を工夫すれば、児童一人一人が「わくわく」する「もの」や「ひと・こと」に興味をもち、意欲的に活動に取り組むことができるであろう。

## <仮説 2 >

体験活動の後には必ず表現活動の時間を設定すれば、互いに見付けた「わくわく」する「もの」や「ひと・こと」を聴き合う中で、自分の思いや気付きの質を高めることができるであろう。

### (2) 研究の手立て

#### 【仮説 1 に迫るための手立て】

手立て①意欲的に取り組むことができるように、「わくわく」する「もの」や「ひと・こと」を見付ける活動を取り入れたり、「知りたい」「見てみたい」「行ってみたい」という児童の思いや願いを大切に授業を組み立てたりする。

手立て②人と関わりながら活動できるように、心と体をほぐすスタートカリキュラムや教科横断的な授業を取り入れる。

#### 【仮説 2 に迫るための手立て】

手立て③自分で見付けた「わくわく」する「もの」や「ひと・こと」を伝えられるように、タブレットを使用する時間を確保する。

手立て④友達の思いや気付きを見たり聴いたりすることができるように、言葉や絵で伝える場を設定する。

手立て⑤児童が互いの思いや気付きから新たな気付きへとつなげられるように、教師が問いかけたり、児童の思いをつなげたりしていく。

## 4 研究の実践

### (1) 高棚小学校ってどんなところかな（手立て①）

小学校へ入学して1か月ほどが経ち、不安そうな児童も少しずつ学校にも慣れ、笑顔が見られるようになった。ある児童が、「お姉ちゃんから、高棚小学校には大きな部屋がたくさんあるって聞いたよ。」とうれしそうに、教師や友達に話す姿があった。その話を聞いていた児童たちは、「どこにあるの。」「音楽室っていう名前だと思うよ。」「みんなで行ってみたいね。」と各々に話し始め、興味をもち始めている様子であった。そこで、「入学してから、高棚小学校で見付けたものはあるかな。」と問いかけ、自分で見付けたものを発表する場を設定した。どの児童も、自分の見付けたものを伝えようと、積極的に手を挙げ、意欲的に授業へ参加をする様子が見られた



【資料 1】意欲的に見付けたものを発表しようとする児童

【資料 1】。場所だけではなく、いつも遊ぶ遊具について発表する児童や、生き物・植物を発表する児童、校長先生や隣の学級の先生など、人に着目する児童もいた。それを聞いた他の児童が、「どこにあるのかな。」「他にも先生がいっぱいいるのかな。」とつぶやいていた。「みんなで学校を探検してみますか。」と教師から尋ねると、満面の笑みで「行きたい。」と元気よく答えた。それだけ、学校に対して強く興味・関心をもっていることや、学校という場所が楽しいと感じている児童が多いことが分かった。

## (2) 2年生と一緒に「わくわく」を探そう（手立て④）

初めての学校探検は、2年生のペアと一緒に周りながら、学校について教えてもらうことになった。今まで入ったことのない部屋に連れて行ってもらい、どんな部屋なのか、どんな「もの」があるのか、どんな「ひと」がいるのか、1年生の児童は目を輝かせながら話を聞いた【資料2】。途中、教師とすれ違ったときには、「保健室には、けがを治す道具がたくさんあると教えてもらったよ。」



【資料2】2年生や保健室の先生から話を聞く児童

「保健室の先生から、シャワー室があると聞いてびっくりしたよ。」とうれしそうに話す1年生の姿

が見られた。探検が終わった後は、学校探検で見つけた「わくわく」を伝え合う時間を設けた。児童が見つけた「わくわく」を全体へ伝えると、毎回「ぼくも見つけたよ。」「そこには、〇〇先生がいたよ。」などの、たくさんのつぶやきが聞こえてきた。それだけ友達の見つけた「わくわく」について、知りたい気持ちが大きくなっているのだと感じた。しかし、ある児童が、「私は見ていないから分からない。」と悲しそうにつぶやいた。他にも「なんで校長室にふわふわな椅子があるの。」などの疑問も出てきた。今後、どうしたいかを投げかけると、「もっと学校探検へ行って調べたい。」という声上がり、次の日からさらに学校探検へ行くことになった。

## (3) もっと「わくわく」を探しに行こう（手立て①、②、③）

### ① 1年生だけで「わくわく」を探しに行こう

2年生と一緒に学校探検へ行ったことで、さらに「知りたい」ことや「見てみたい」ものが増え、1年生だけで学校探検へ行くことにした。一気にいろいろな場所へ行くのではなく、学級でどこに行きたいのかを話し合っ決めて決めることにした。探検へ行くときには、必ずタブレットを持ち、「わくわく」する「もの」や「ひと」の写真を撮影することで、自分で見つけた「わくわく」を見返すことができるようにした。児童は写真を撮り終わるとすぐに、「〇〇さんは、どんなわくわくを見つけたの。」「ぼくは、これを見つけたよ。」「それはどこにあったの。」と互いに聴き合う姿が見られた。また、「そのわくわくはすてきだね。」と声をかける姿も見られ、児童同士の関わりができるようになった。探検の後は、自分の撮影した写真を見ながら、「わくわく」カードに「もの」や「ひと・こと」の絵（または言葉）を描いて貯めて、どんな「わくわく」を見つけたのかを伝えることにした。すると、さらに気になることや知りたいことが出始め、次の探検へ生かすことができた。この流れを繰り返すことにより、「もの」だけではなく、「ひと」にも着目ができる児童が少しずつ増え、気付きの質が高まった。

### ② 「1ゆきぴかぴかたんけんたい」に変身しよう

#### ア オリジナル探検バッジを作ろう

教師から「学校探検をするときに、『1ゆきぴかぴかたんけんたい』に変身してみませんか。」と提案をした。すると、「探検バッジを作って変身したい。」との声が上がった。

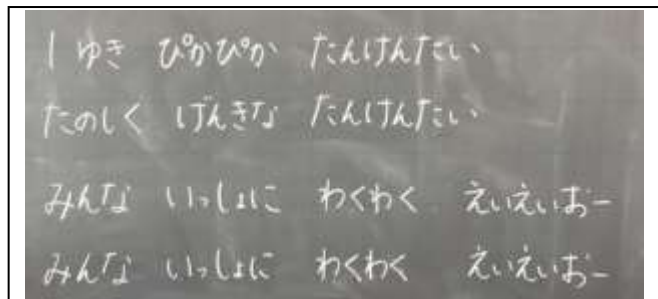
そこで、図工の時間を使って、オリジナル探検バッジを作成することにした。始めは悩んでいた児童も、だんだんと自分の思いが詰まったバッジを作り始めた。ある児童に「どうしてその形にしたの。」と尋ねると、「探検はお宝を探しに行く感じがしたから、ダイヤの形にしたよ。」と教えてくれた。他にも、「みんなで一緒に探検できるから、お友達をバッジに入れたよ。」と話す児童もいた。バッジが完成したときは、誰もが笑顔で胸にオリジナルバッジをつけることができた【資料3】。



【資料3】探検バッジをつけ、うれしそうな児童

### イ 「1ゆきぴかぴかたんけんたい」の歌を作ろう

音楽の教科書の中に、「セブンスステップス」という歌がある。友達と一緒に楽しく歌って踊ることができ、音楽の授業では毎回歌っていた。それぐらい、児童たちにとってお気に入りの歌となっていた。そこで、このメロディーに、自分たちで歌詞をつけ、探検隊の歌を創作することにした。「探検」と聞いてどんな言葉が思いつくのか児童に尋ねると、「わくわく」、「みんな」、「一緒に」、「元気に」、「えいえいおー」の言葉を挙げた【資料4】。



【資料4】学級全員で作った探検隊の歌詞

さらに、振り付けも児童がアイデアを出し合った。出来上がった探検隊の歌を発表すると、「やってみよう」と言い、近くにいる友達とすぐに歌い始めた。児童の思いがたくさん詰まったオリジナルだからこそ、これだけ意欲的に歌うことができると分かった。また、友達と楽しそうに関わる姿もあり、スタートカリキュラムの一つとして活用することで、心がほぐれた状態で活動を進めることができるのだと感じた。

### (4) マップを「わくわく」でいっぱいにして②、③、④、⑤

#### ①見つけた「わくわく」を友達に自慢しよう

学校探検へ何度も行き、貯めてきた「わくわく」カードを使って、大きなマップを作ることを提案した。模造紙3枚分のマップに、自分たちの「わくわく」カードでいっぱいにしていくこと、同じ班の児童や周りにいる教師にどんな「わくわく」を見つけたのかを自慢してから、貼りに行くことを説明した。班に分かれ活動をする様子を見ると、なかなか上手く言語化ができず、困惑しているC1がいた【資料5】。そこで、教師から探検

- T : どうしたの。  
 C1 : どうやって言えばよいのか分からないの。  
 T : たくさんカードを書いたね。これは何か教えてほしいな。  
 C1 : それは白いつぼだよ。  
 T : どこで見つけたの。  
 C1 : 体育館にあったよ。  
 T : 体育館のどの辺りにあったの。  
 C1 : 舞台の横にあったよ。初めてあんなに大きなつぼを見たよ。  
 T : そこが「わくわく」したの。  
 C1 : うん、そうだよ。  
 C2 :すごいね。それは「わくわく」しちゃうね。  
 C3 : なんで体育館につぼがあるのかな。気になるね。  
 C1 : きっと、たくさんの人にきれいなお花を見せたいんだよ。

【資料5】問いかけの様子

時のことを問いかけ、自分の見付けた「わくわく」を、再度想起できるようにした。すると、聞いていた他の児童が、「すごいね。」と話しかけ、児童同士でのやり取りが始まった。戸惑っていた他の児童も、C3の投げかけに対して、自分なりに考え、相手へ伝えようとする姿が見られた。児童同士の関わりにより、さらに学びが深まったと考える。

## ②自分の経験を伝えよう

マップを見ると、「わくわく」がたくさん貼られ、児童たちはとてもうれしそうにしていた。「私も同じものを見付けたよ。」「保健室には、たくさんわくわくが貼ってあるね。」など、見て気付いたことを自由に話していた。その中で、「もの」ではなく、「ひと」に着目してマップに貼る児童の姿があった。どうして「ひと」に着目した「わくわく」を貼ったのかと聞いてみた【資料6】。児童は、担任が「かわいいから。」と答えると、他の児童が、「いつも勉強を教えてくれるから、ぼくも担任の先生を書いたよ。」と、自分の経験である「こと」にも着目して発表した。再度カードをマップに貼る時間を取ると、たくさんの児童が「ひと・こと」に関連するカードを貼るようになった。その場で新たに、カードを書き始める児童もいた。担任だけではなく、自分たちの生活には、たくさんの「ひと・こと」が関わっていることに気付き、自分の思いをのせて表現することができるようになった。完成したマップを見て、全体の場で思ったことを伝え合うときには、C5やC8のように、「ひと」だけではなく、「こと」についても、自分の経験を入れて、気付きを伝える児童の姿が見られた【資料7】。

## (5)みんなに「わくわく」を伝えたいな

### (手立て④、⑤)

マップが完成し、これからこのマップをどうしていきたいのか、児童へ投げかけたところ、「たくさんの人に見てもらいたい。」という声が多かった。どんな人に見てもらいたいかを聞くと、自分の家族や小学校の先生、6年生のお兄さん、お姉さん、保育園や幼稚園の子や先生たちと話した。それだけ、自分たちの思いが詰まったマップの「わくわく」について、自ら伝えたい気持ちが大きいのであろう。そこで、国語の時間を使って、一番伝え



【資料6】発表する児童

T : マップを見て、何か思うことがある子はいいますか。

C4 : 保健室の先生が、たくさん貼ってあるよ。

T : 本当だね。どうして保健室の先生が「わくわく」したのか聞いてみますね。

C5 : けがをしたときに、絆創膏を貼ってくれてうれしかったから。  
(ひと・こと)

T : 他にも言える子はいかな。

C6 : けがを治してくれるし、にこにこして優しく声をかけてくれたから。

C7 : けがをしたとき、「大丈夫。」と聞いてくれてほっとしたよ。

C8 : 服が濡れてしまった時に貸してくれる、優しい先生だよ。(ひと・こと)

【資料7】「ひと」から「こと」に気付きの質が高まる児童の話し合い



【資料8】完成したマップを見ながら考える児童

たい「わくわく」と題して、伝えたいこと文で表現することにした。児童はマップを見ながら、たくさん貼った自分の「わくわく」カードを探し、自分の言葉で「わくわく」したところを文章にしていって【資料8】。繰り返し学校探検へ行っているからこそ、書きたいことが溢れ出し、どのように説明すれば、相手が分かってくれるのかと、目的意識をもって考える姿が見られた。

## 5 成果と課題

### (1) 仮説1について

①の手立てを講じたことで、興味・関心をもち、もっと知りたいという気持ちを高めて活動に取り組むことができた。単元の導入は、学校探検という活動そのものが中心だったが、児童の思いに寄り添った単元構想や授業展開を行っていくうちに、後半は、自分の気になることをさらに探究してみたり、試行錯誤をして考えを広げたりすることが少しずつできるようになったと考える。②の手立てを講じたことで、どの時間をみても、児童が友達や教師と一緒に心から楽しんで活動している姿が見られた。スタートカリキュラムを継続的行ったことで、児童たちは楽しく、安心した雰囲気の中で学習を進めていくことができたと考える。教科横断的に、図工でバッジを作ったり、音楽の授業でオリジナルの歌を作ったりしたことで、友達と関わりながら、楽しく意欲的に活動し、次時へつなげることができた。そのつながりを大切にした単元構想や授業の組み立てが、児童の意欲をさらに高めたと実感した。

### (2) 仮説2について

③の手立てを講じたことで、見つけた「わくわく」を何度も見返し、互いに聴き合うときの手助けとした。「わくわく」カードを描く際、友達とどんな「わくわく」を見つけたのか、写真を見せ合いながら話し、同じ部屋でも「ひと」によって「わくわく」する「もの」や「こと」が違うことに気付く手掛かりになったといえる。④の手立てを講じたことで、自分の思いを明確にして、発表ができた。また、友達の「わくわく」を聴くことにより、自分と比べて考えたり、参考にしたりして今後の活動に生かすことができた。⑤の手立てを講じたことで、児童が安心して自分の思いを広めることができた。また、上手く言葉が出てこない児童に対しても、問いかけることで、自分の言葉で友達へ伝えようと頑張る姿が見られた。さらに、聴き合いの活動の中で、新たな気付きをもつ児童の気付きから、自分の視野を広げていく児童の姿も見られた。

### (3) 成果と課題

生活科は、児童が自分の生活を楽しく豊かにしていく教科である。そのため、今回の学校探検の単元構想のように、児童の生活とつなげることを意識して作成していくことが大切なのだと感じた。「ひと・こと」に目を向けさせ、自分の経験と結び付けていったが、「優しい」や「楽しい」などの大まかな言葉で終わってしまった。もう一歩踏み込んでいけるような教師の問いかけがあれば、周りの人たちに支えられているというさらなる価値付けになったと考える。2学期は、学校の周りにある「わくわく」を探しに行く授業や、マップを使って全校児童や近隣の保育園への発表を行い、自分たちの見つけた「わくわく」を伝えていく。どうしたら自分たちの思いが伝わるのか、繰り返し友達と関わりながら考え、意欲や自信をもって取り組む児童の姿を期待したい。